

かがやけ★ クリスチャンキッズ ～洗礼を受けたきみのために～

洗礼を受けたきみ、こんにちは。そしてほんとうにおめでとう！
きみは、クリスチャンとしてあゆみはじめたところだね。
きみのイエスさまとの人生が、たくさんのめぐみであられるようにお祈（いの）りしているよ。
さあ、そのためにもアイちゃん、ノブくんといっしょにこのテキストでもっと神さまのことを
知ろう！



またきみに会えてうれしいよ！
よろしくね！



フランソン先生もよろしくおねがい
します。



もくじ

- 1 救われてるってほんと？…………… 2
- 2 聖霊ってだれ？…………… 5
- 3 ゆるすってむずかしい！…………… 8
- 4 交わりってなあに？…………… 11
- 5 賛美するってすばらしい！…………… 14

1 ^{すく}救われてるってほんと？

フランソン先生、わたし、洗礼（せんれい）受けたくて！たくさんの人にお祝いしてもらってうれしかった！

でも時間がたってきて、本当にわたしは救われているのかなってちょっと心配になってきました。だいじょうぶですよ？



そうそう、ぼくもなんとなく不安になることがある。でも心配だなんて言っちゃいけないような気がして・・・。

アイちゃん、ノブくん、話してくれてありがとう。長い人生、だれでも心配になることはあるんだよ。だいじょうぶかどうか、聖書に書かれていることをたしかめてみよう。



1. イエスさまがくださった救いって？



まずは二人がイエスさまからいただいた救いってなんなのか、聖書からみてみよう、エペソ人への手紙 2 章 1～9 節を開いてごらん。

イエスさまを信じる前のわたしたちは罪（つみ）のために死んでいって聖書は言っているよ（2:1）。自分ではそのつもりではなくても、それは悪魔（あくま）にしたがって歩んでいたということなんだね（2:2）。そしてそのままでは、やがて神さまから罰（ばつ）を受けなければならなくなってしまうんだよ（2:3）。ところが、神さまはご自分が造られた人間を愛して、どうにかして罪の罰を受けなくてすむようにしてあげたいとねがってくださったんだ。その方法が、イエスさまが十字架（じゅうじか）にかかって、わたしたちのかわりに罰を受けてくださったってということだね。聖書の約束は、もしそのことを信じれば、もう罪の罰を受けなくてよいということ。それがつまり救われるということだったね。信じているなら、どんな罪もイエスさまによってゆるしていただけるんだ。これは「神の賜物（たまもの）」（2:8）、つまり神さまからのプレゼントなんだよ。

そうですね・・・。わたし、イエスさまのこと、信じているからだいじょうぶだと思うんだけど、どうして心配になっちゃうのかな？



2. どうやって救われているって思えるの？



わたしたちの気分は毎日かわるよね。救われていると思う日は救われていて、救われていないと思う日は救われてないのかな？そんなことはないんだ。イエスさまの救いはわたしたちの気分にはよらないたしかなものだよ。でも、イエスさまの救いを「そうだ！」って思うことができるには3つの助けがあたえられているよ。

(1) 聖書の約束のみことばによって

いつまでも変わる事のない約束のみことばによって、わたしたちはイエスさまに救われたことをはっきりと知ることができるんだ。きみは自分が「これだ！」と思う約束のみことばをもっているかな？ひとつ決めて、それをしっかりおぼえておくといいよ。心配になったときはそのみことばを思い出すと、みことばにたすけてもらえるから。

☆聖書を開いて、次のみことばを読んで（ ）をうめてみよう。

ヨハネの福音書1章12節

しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を（ ）人々には、（ ）となる特権（とっけん）をお与えになった。

ヨハネの福音書3章16節

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を（ ）。それは御子を（ ）者が、一人として滅（ほろ）びることなく、（ ）を持つためである。

エペソ人への手紙2章8節

この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって（ ）のです。それはあなたがたから出たことではなく、（ ）です。

(2) 聖霊（せいれい）なる神さまの助けによって

聖書には、「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません。」（1コリント12:3後半）って書いてあるんだ。きみたちは、「イエスさまはわたしの（ぼくの）救い主です」って洗礼を受ける時に告白（こくはく）したよね。自分で言ったように思うかもしれないけれど、聖霊なる神さまがきみたちに告白させてくださったんだよ。きみたちがイエスさまを自分の救い主と信じることができたのは、聖霊なる神さまのお働きによるんだ。さらに聖霊なる神さまは、わたしたちのうちに住んでくださって、イエスさまを信じた者として成長できるように助けてくださるんだ。

(3) クリスチャンとして歩むことによって

イエスさまは、信じて罪から救われたわたしたちに、新しいいのち—えいえんのいのち—をくださったんだよ。そのいのちは、イエスさまを信じた時から、わたしたちの中で働き始めているんだ。少しずつ、神さまによるこばれない罪の心が変わられて、神さまによ

2 せいれい 聖霊ってだれ？



フランソン先生、しつもん！ずばり、聖霊ってだれ？ 人なの？霊なの？霊なんて、ちょっとこわい感じもするな。

えー、のぶくん。知らないのー？聖霊ってクリスチャンにはとっても大事な方なんだよ。でも、神さまやイエスさまとどうちがうんだろう？わからなくなってきた。フランソン先生、教えてください。



とても大事なしつもんだね。
聖霊は神さまだよ。洗礼前に三位一体（さんみいったい）っていうことばをならったかな。父なる神さまも子なる神さま（イエスさま）も聖霊なる神さまもみんなおひとりの神さまなんだ（くわしくは「かがやけ★クリスチャンキッズ p. 14 をみてみよう）。そして聖霊なる神さまは、とくにわたしたちが今、生活するために助けてくださっている方なんだよ。

1. クリスチャンは成長する！



聖書にはこんなことばがあるよ。「あなたがたの信仰が大いに成長し」（Ⅱテサロニケ 1:3）。信仰とは、神さまを信じる心、イエスさまを信頼（しんらい）する心のことだね。子どもから大人になるように、神さまを信頼する心も「成長」するんだよ。それからこんなことばもある。「私たちはみな・・・、栄光から栄光へと、主とおなじかたちに姿（すがた）を変えられていきます」（Ⅱコリント 3:18）。クリスチャンは、イエスさまと同じような姿に変えられていくんだ。なにに、イエスさまみたいに女の子におひげがはえたらこまるって？もちろん、見た目の話じゃないよ。クリスチャンは、奉仕（ほうし）をささげることや、他の人にやさしくすることなどイエスさまのような人に成長するんだ。そして、その成長を助けてくださるのが聖霊なる神さまなんだよ。

そうか！じゃあ、こわい方じゃなくて、助けてくださる助け主なんだ！



もちろん！イエスさまは十字架にかかれる前に、弟子たちに「もう一人の助け主」（ヨハネ 14:16）が来られると約束してくださったんだ。そしてその方、つまり聖霊なる神さまが、私たちの中に住んでくださり（Ⅰコリント 6:19-20）、私たちをはげましたり、力づけたりして、助けてくださるんだ。クリスチャンとして生きるのは、ひとりでがんばってするものではないんだよ。いつも聖霊と

いっしょに歩む二人三脚（ににんさんきゃく）の歩みなんだよ。心強いね！



いいクリスチャンになるために、ひとりでがんばらなきゃいけないんだと思ってました。ちがうですね。

2. 聖霊の助けってどんなもの？



じゃあ、聖霊ってどんなふうに私たちを助けてくださるんだろう？

(1) 神さまの子どもにふさわしい人に変えてくださる

私たちは、イエスさまから新しいいのちをいただいて、神さまの子どもにさせていただいたね。でも、私たちには罪の性質が残っていて、やっぱり毎日罪をおかしてしまうし、神さまのてきの悪魔（あくま）も私たちを神さまからはなそうとして、神さまにしたがいたくないという思いをたせようとするんだよ。

聖霊はそんな罪の心や悪魔のこうげきから守ってくださって、私たちが神さまによるこばれる歩みをするように助けてくださるんだ。「神さまにしたがいたい」、「罪をやめたい」という心を私たちの中に起こしてくださるんだよ。もし罪をおかしそうになったら、「神さま、助けてください」ってお祈りしよう。そして罪をおかしてしまったら、「ごめんなさい」ってお祈りしよう。聖霊は、そんな私たちの神さまへのお祈りを、おうえんしてくださるんだ（ローマ8:26）。そしてこれが、神の子どもとしての歩みで、神さまの子どもとしてふさわしく歩んでいるということなんだ。

聖霊は、お祈りするのも助けてくださるんだ。何をすることも守ってくださってるって感じだね！



(2) イエスさまを伝えられるようにしてくださる



そのとおり！それからクリスチャンはいろんなことを通して、イエスさまをまだ知らない人にイエスさまを伝える役目を持っている。それは子どもでも同じだよ。その役目をはたせるように助けてくださるのも聖霊なんだ（使徒1:8）。だからイエスさまを伝えることについても、「神さま、助けてください」ってお祈りすることが大事だね。きんちょうすることはないよ。神さまがそうさせてくださるから、心配しないでいじょうぶ。知らないうちにイエスさまを伝えることになってた、なんてこともあるから。

(3) 天の御国（みくに）をくださる

聖霊は、「きみはちっとも成長しないなあ」なんてきみを見すてたりしないよ。神さまの子どもになったきみたちを、ちゃんとせきにんをもって育ててくださるんだ。そしてやがてわたしたちみんなを、天国に入れてくださる。エペソ人への手紙1章14節には、「聖霊はわたしたちが御国を受け継（つ）ぐことの保証（ほしょう）です」って書いてある。聖

霊がいっしょに歩いてくださっているクリスチャンは、かならず御国というすばらしいプレゼントをいただくんだよ。聖霊は、やさしく私たちをはげまして育ててくださるコーチみたいなんだね。



1. イエスさまを信じて、洗礼を受けてから、自分は変わったなと思うことはある？小さなことでもいいよ。他の人の意見も聞いてみよう。もちろん気がつかないこともある。それでも成長させてくださるという約束を信じよう！

2. 聖霊なる神さまはきみの心の中に住んで、きみのクリスチャンとしての歩みを助けてくださるんだ。それを信じていることができるかな？

はい よくわかりません

※もしよくわからないと思ったら、神さまがそばにいてくださることがわかるようにお祈りしよう。



聖霊は、クリスチャンを成長させてくださり、毎日の生活の中でも、お祈りする時にも、イエスさまを伝えたいなと思った時にも、いつもいっしょにいて助けてくださるすばらしい助け主でコーチなんだ。この方がいっしょにいてくださることで安心してクリスチャンとして歩めるんだね。



「そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。」

ヨハネ14章16節

3 ゆるすってむずかしい！



教会の友だちとケンカしちゃった。ぼくのことたたいたあっちが悪いんだよ。もうぜったいゆるすもんか！

もう、また、ケンカしたの？まああっちも悪いけど、教会の中でケンカなんてやめてよね。イエスさまは「たがいに愛し合いなさい」って言うのに…



ノブくん、気持ちはよくわかるよ。愛すること、ゆるすことって、口で言うのはかんたんだけど、人間だれにとってもとてもむずかしいことだね。おちついて、どうしたらいいか、いっしょに考えてみようか。

1. ただでゆるされ、愛されている



わすれてはいけないことがあるんだ。それは、わたしたちはただで罪（つみ）をゆるされ、愛されている罪人（つみびと）だということ。イエスさまはマタイの福音書18章21～35節のたとえ話の中で、私たちが1万タラントの借金のあるしもべにたとえておられるよ。1万タラントっていうのは、1デナリは一日のお給料と言われているから、その1デナリを10,000円とすると、今のお金で、10,000円（1デナリ）×6000（1タラントは6000デナリ）×10,000=600,000,000,000円！なんと借りていたお金は六千億円！ぜったいに返せない金額（がく）をあらわしているんだよ。

このしもべは、家族も持ち物も売っても返せないほどたくさんのお金を借りていたんだよ。何に使ったんだろうね。返せるまで待つてほしいと必死で願うしもべを、しもべの主人はかわいそうに思ってゆるし、なんとすべての借金をなしにしてくれたんだ。もう返さなくていいよ、と言ってくれたってこと。そして私たちはこのしもべのように、神さまに愛され、神さまのあわれみをいただいて、自分の力ではどうすることもできない罪をゆるしていただいたんだよ。

2. ゆるさないと…



そのように神さまによって罪がゆるされた私たちは、神さまの愛をいただいて人を愛せるようになれるんだ。イエスさまが愛しなさいって言われているのは、自分の好きな人ばかりじゃないよ。自分のきれいな人も、自分の敵（てき）もなんだ（マタイ5:44）。でも正直なところ、いくら自分がゆるされたと思っても、ゆるせ

ないし、愛せないこともある。相手のために思ってしたことが誤解（ごかい）される、行きがちがあって友だちと関係が悪くなってしまう、親や先生にわけもわからずにおこられる、何もしていないのにひどいことを言われる…そんなことではらが立ったり、相手がいやになったりすることがあるよね。自分は悪くない、相手が悪いんだ、って思うことはたくさんあるよね。

でも、ゆるさない、愛せないという思いをもったまま生活するとどうなると思う？



もしかして、ゆるしないとわたしたちもこまるの？

(1) 神さまとの関係



そうなんだよ。まず、神さまとの関係がうまくいかなくなる。ゆるさなかったり、愛さないでいると、神さまの愛が本当にはわからないからだ。お祈りしても落ち着かなくて、心から礼拝（れいはい）をささげることもできなくなってしまうんだよ。

(2) 人との関係

次に、ゆるせない友だちとの関係がうまくいかなくなるよ。「たがいに愛し合いなさい」という関係とはまったくちがう関係になってしまうね。

(3) 自分自身の生活

また、おこったり、にくんだり、ゆるせない思いを持っていたりすると、いらいらしたり、おちついて生活したり勉強することができなくなる。人をゆるすのは、相手の人のためというよりも、じつはきみ自身のためなんだ。人をゆるさないでいるかぎり、きみはその人のことが気になって、神さまからいただく本当の幸せがわからないんだ。神さまもゆるさないでいる人をほうっておくことはなさないよ。毎日の生活の中で、またみことから、注意のサインを出してくださることもあるよ。

3. ゆるす心は神さまから



さてではどうすれば、ゆるすことができるんだろう？神さまにしたがってゆるし、愛せるように努力してみようと思ったこともあるだろう。でも、「そんなの無理ー」ということに気づくことも多いよね。特に、自分は悪くないのに相手からひどいことをされた場合は、ゆるすことはかんたんではない。人を愛する心、ゆるす思いは自分の努力でがんばるのではなくて、神さまからいただくものなんだよ。

大人であっても、ながーくクリスチャンしている人であっても、たくさんのクリスチャンが人をゆるせなかったり、愛せなかったりするんだ。人をゆるし、愛するというチャレ

ンジは、天国に行く時まで続くんだよ。

もしきみが今、この問題にぶつかっているなら、ぜひ神さまにお祈りしてみよう。自分でがんばろうとするのではなく、神さまに「愛する心をください」と祈ること。本当かなと思うかい？まずはお祈りしてみよう。神さまはきみのお祈りを聞いて、必ず助けてくださるよ。



友だちのこと、神さまにお祈りしてみようかな。



わたしもノブくんのためにお祈りするね！



1. 今、ゆるせない人、愛せない人はいるかな。もしいるなら、その人のことをゆるし、愛することができるように、神さまが助けてくださるようにお祈りしよう。



人をゆるせないとき、愛せないときは、まず自分が神さまに愛され、ゆるされた罪人であることを思い出そう。そして、神さまに助けを求めて祈ろう。そうすれば、きっと神さまは、愛する心を与えてくださるよ。



「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互（たが）いに愛し合うこと、これがわたしの戒（いまし）めです。」ヨハネの福音書15章12節

4 まじ 交わりってなあに？



よく教会で「交わり」っていう言葉を聞くけど、どういうことかな？



ばくも聞いたことがあるよ。でも学校ではあんまり聞いたことがないなあ。

たしかにふだんの生活ではあまり使わないことばかもしれないね。でも、クリスチャンの生活にはなくてはならないほど、「交わり」は大切なんだ。いっしょに、クリスチャンの「交わり」について学んでいこう。



1. 交わりってなあに？



「交わり」ってなんだろう？いっしょにお茶を飲んだりおかしを食べたりすることを、「交わり」と言ったりするかもしれないね。でも、交わりにはもっと深い意味があるんだ。「交わり」とは、もともとは「いっしょにもつ」、「分け合う」という意味だよ。クリスチャンは、たったひとりで神さまを信じて生きていくことはできない。同じ神さまの子どもとして、ほかのクリスチャンの仲間と、うれしいことも悲しいこともいっしょに分け合いながら、はげましあって生きていくのがクリスチャンの生き方なんだ。それを聖書は交わりってよんでいるんだ。

2. なぜ他のクリスチャンとの交わりは大切？

(1) 神さまが他の人と生きるように私たちをつくられたから



創世記で神さまは、「人がひとりであるのは良くない」(2:18)とおっしゃった。神さまはアダムにふさわしい助け手が必要だと考え、エバをつくられた。神さまは、もともと人がひとりでは生きられないようにおつくりになったんだ。

(2) 神さまのかたちに造られたから

私たちが信じている神さまは、ひとりぼっちのお方ではなく、父、子、聖霊の神さまだね。だから、神さまは交わりをよるこばれるお方なんだ。神さまは私たち人間を「神のかたち」(創世記 1:26~27)につくられた。つまり、神さまは私たちにも、他の人といっしょに生きること、すばらしい交わりを持つことを望んでおられるんだ。私たちは交わりをよるこばれる神さまににているようにつくりられているんだよ。

(3) クリスチャンとしての成長に大切だから

他のクリスチャンとの交わりは、わたしたちが神さまの子どもとして成長するために、なくてはならないことなんだ。他のクリスチャンと話をしたり、いっしょに祈ることによって、その人がいつどうやってみことばに教えられているか、どんなふうにイエスさまを他の人に伝えているか、苦しいことをどのようにのりこえたかなどを知ることができる。このような交わりをとおして、私たちもこの世界で生きていくんだ。伝道者の書には「一人なら打ち負かされても、二人なら立ち向かえる。三つ燃（よ）りの糸は簡単（かんたん）には切れない」(4:12) と書いてある。みんなではげまし合えるって、すばらしいね！

(4) 聖書が他の人との交わりをもって生きることをすすめているから

聖書、とくに新約聖書には「互（たが）いに」ということばが何度もでてくるのに気づいたかな。イエスさまは弟子たちに「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒（いまし）めです」(ヨハネ 15:12) と言われた。またパウロは、「互いに忍耐（にんたい）し合い…、互いに赦（ゆる）し合いなさい」(コロサイ 3:13)、「互いに教え、忠告（ちゅうこく）し合い」(コロサイ 3:16) と言っている。私たちクリスチャンは、互いに愛し合い、教え合ったり、注意し合ったりして、歩んでいくんだよ。

3. いろいろな交わりのかたち

(1) 礼拝（れいはい）による交わり



毎週日曜日、いっしょに集まってささげる礼拝で、私たちは他の兄弟姉妹とともに神さまを見上げている。礼拝には、神さまとのタテの関係だけでなく、いっしょに礼拝している兄弟姉妹とのヨコの関係も大事なんだよ。いっしょに救い主イエス・キリストを礼拝するとき、そこにはすでに兄弟姉妹との交わりが生まれているんだ。

(2) 食事による交わり

使徒の働きには、エルサレムで生まれた最初の教会の様子が書かれているよ。そこでは、みんながいっしょに食事をしながら交わりをしていたんだよ（使徒 2:42, 46）。きみの教会でも、よくみんながいっしょに食事をするだろう。それは、ただおながすいたからということじゃなくて、いっしょにごはんを食べることが、教会が大切にしている交わりのかたちだからなんだ。もし食事のチャンスがあれば、年がちがう人とも交われるようにすすんで参加しよう。

(3) 祈りによる交わり

ほかの人と話すのが苦手だという人もいるかもしれないね。そんな人にもできる交わりがあるよ！それは、ほかの人たちのためにお祈りすること。ぜひ、他の人たちのお祈りの課題（テスト、入試、病気、問題などの大変なことや感謝（かんしゃ）なこと）をもらって、その人のためにお祈りしよう。もちろん教会の中であなたのために祈ってくれている人もいるはず。お互いに祈り合うこと、これはまさにクリスチャンだけができる素晴らしい交わりなんだ（ヤコブ5:16）。教会の祈り会に出席することも、祈りの交わりをもつことを助けてくれるよ。

（4）支えることによる交わり

他のクリスチャンを助けることも、聖書では「交わり」とよんでいるよ（Ⅱコリント8:4）。自分の教会にいるクリスチャンはもちろん、他の教会を助けること、まずしい国にいるクリスチャンたちのために献金（けんきん）をささげることも大切な交わりなんだ。きみが今できることを考えて、ぜひやってみよう。



1. きみの教会にはどんな交わりがあるかな？

2. どうしたら、教会の人たちともっと親しくなることができるかな。考えてみよう。祈ってみよう。



私たちは他の人との交わりの中で生きるように神さまに造られた。互いに交わりを持ち、支え合い、はげまし合いながらイエスさまについていこうね。



「彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂（さ）き、祈りをしていた」使徒2章42節

5 ^{さんび} 賛美するってすばらしい！



みんなはどんな賛美が好きかな？



ぼくは、ドラムやギターを使った元気のいい賛美が好きだな。



わたしは元気のいい賛美も好きだけど、自分の心の内をそのまま表した賛美もいいと思うな。



ワンワンワワワワン（やっぱりキーボードを使った賛美がいいよ）



ハハハ！キー坊ったら！わたしはオルガンの伴奏で歌う賛美歌がなれていて好きだな。今日は賛美についていっしょに考えてみよう。

1. 賛美について聖書が教えていること



まずは賛美について聖書が教えていることを見てみよう。

(1) わたしたちは神さまにむかって賛美するように造られている

詩篇（しへん）103 篇 22 節を読んでみよう。「主をほめたたえよ すべて造られたものたちよ。主が治められるすべてのところで。わがたましいよ 主をほめたたえよ。ここには、神さまは、神さまを賛美するように私たちが造られたって書いてあるね。だから、賛美はしてもしなくても、どちらでもよいものではないんだ。また詩篇 40 篇 3 節には、「主はこの口に授（さず）けてくださった。新しい歌を 私たちの神への賛美を。多くの者は見て恐（おそ）れ 主に信頼（しんらい）するだろう」と書かれている。私たちが神さまを賛美することで、聞いている人たちは「神さまはすばらしい！」って思うんだね。賛美はえんそうする人のすばらしさをしめすためのものではなく、ただ神さまをほめたたえるものだよ。

(2) 賛美はささげもの（いけにえ）

ヘブル人への手紙 13 章 15 節を読んでみよう。「それなら、私たちはイエスを通して、賛美のいけにえ、御名（みな）をたたえる唇（くちびる）の果実を、絶えず神にささげようではありませんか」。礼拝のプログラムの中で、賛美はおまけではなく、神さまへの大切なささげものだよ。賛美は、メッセージと同じように礼拝の中心なんだよ。

(3) 賛美は神さまとの交わりを深める

詩篇 100 篇 1～4 節には、「全地よ。主に向かって喜（よろこ）びの声をあげよ。喜びをもって主に仕えよ。喜び歌いつつ御前（みまえ）に来たれ。知れ。主こそ神。主が 私たちを造られた。私たちは主のもの 主の民 その牧場（まきば）の羊。感謝（かんしゃ）しつつ 主の門に 賛美しつつ その大庭に入れ。主に感謝し 御名（みな）をほめたたえよ」とある。

賛美は祈りの言葉にメロディーがついたもので、神さまとの関係を深めてくれるんだよ。賛美は神さまと私たちを結ぶかけ橋とも言える。祈れば祈るほど、賛美すればするほど、神さまとの関係はしたしくなり、神様が私たちの心をよろこびでいっぱいにしてくださるんだ。ここに 本当に神さまがいらっしゃると感じることができるんだよ。

そうかあ～。賛美にはこんなに深い意味があったんですね。



2. 賛美にはどんな楽器を使ったらいいの？



きみたちの教会の礼拝でささげている賛美はどんな感じかな？ギターやドラムを使っているかな？それともオルガンやピアノかな？

聖書をみると、聖書が書かれた時にあったさまざまな楽器を用いて神さまを賛美していることがわかるんだ。もともとすべての音楽、すべての楽器は神さまを賛美するためにあるんだよ。この楽器は神さまの賛美にふさわしく、この楽器はふさわしくないという教えは聖書の中にはないよ。だから、自分の感じ方や自分が知っているものと違うというだけで賛美がいいとか悪いとかを決めることはできないんだね。どんな楽器でも、神さまによるこびをあらわすことが大事なんだ。一番大切なのは、楽器を使う人の心なんだよ。

世界の教会では、とってもいろいろな形で賛美がささげられているよ。高い天井のチャペルでささげられている昔からあるおごそかな感じの賛美、外でダンスをしながらささげられる賛美、少ない人数でささげられている礼拝の賛美、何千人もの人が集まる礼拝の賛美があるよ。伴奏（ばんそう）もパイプオルガン、ピアノ、ギター、ドラム、バイオリン、民族楽器などが使われている。どれもすばらしい神さまへの賛美だね。

3. 大切なのは賛美をささげる心



今までみてきたように、賛美はふつうの音楽や歌とはちがうよ。賛美はただ聞くものでもないし、人に聞かせるものでもない。だれかの賛美を聞く場合でも、賛美をささげる人と同じように神さまを賛美する心をもつことが大切なんだ。だからもしだれかがささげた賛美にはくしゅするなら、それはその人にじゃなくて、神さまに感謝のはくしゅをしているんだろうね。

コロサイ人への手紙 3 章 16 節を読んでみよう。「キリストのことばが、あなたがたのうち
に豊（ゆた）かに住むようにしなさい。知恵（ちえ）を尽（つ）くして互（たが）いに
教え、忠告（ちゅうこく）し合い、詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向
かって歌いなさい」。賛美は、神さまのはかりしれない大きな愛を知った人が、心をつくし
てその愛にこたえたいという心があらわれたものなんだ。だから、神さまの愛のすばらし
さを知った人なら、だれでも神さまをほめたたえることができるんだよ。賛美はうまいと
かへたとかではなく、ささげる心が一番大切なんだね。ぜひ、きみにも心をこめて神さま
を賛美してほしいな。



1. 賛美で一番大切なことは何だろう？

2. きみの教会の賛美のために、きみにできることはなんだろう？



賛美は、神さまの愛に感謝して神さまをほめたたえ、ささげるもの。賛美には私たちの
神さまへの信仰（しんこう）があらわれているんだね。私たちは生きているかぎり、神さ
まを賛美しつづけよう。



「主をほめたたえよ すべて造られたものたちよ。主が治められるすべてのところで。
わがたましいよ 主をほめたたえよ。」
詩篇（しへん）103 篇（ぺん）22 節